

佐賀大学 戦略的パートナーシッププロジェクト（戦略的PSプロジェクト）

提案の背景

- 第3期中期目標計画期間（平成28年度～令和3年度）において、アジアを中心とした海外協定校とのパートナーシップを構築するとともに、研究者の交流支援体制を強化する取組を実施（例：研究者国際交流支援事業等）
- 令和2年度、「佐賀大学のこれからービジョン2030ー」策定により、佐賀大学が目指す大学像が示された
＜関連個所の抜粋＞
ビジョン 教育
「しなやかな知性と未知なる領域に踏み出す行動力を基盤に、多様な人々との協働を通して持続可能な社会を構築できる人材を育成する」
アクション 1-4 ダイバーシティを背景に多様な学生が互いを刺激し、学び合う場の創造
……多様な個性や背景を持った人々と協働して学びあう場を創造するためには、多様な個性や背景を持った学生の受け入れが必要…
教育及び学生の国際化は多様性を構成する重要な要素。とりわけ、**教育及び学生の国際化は多様性を構成する重要な要素**…
日本人学生の海外派遣に加え、外国人留学生の受入れを戦略的に展開。
ビジョン 研究
「…研究者の育成を進め、知の資産を創出するとともに、地域社会の発展に寄与する研究とイノベーションの創出を強力に推進」
アクション 2-1 個々の研究者の自由な発想に基づく基礎研究・応用研究の充実と分野横断的な研究の推進
…イノベーションの創出を推進するためには**海外の学術機関との積極的な交流による研究活動のグローバル化も必要**…
…グローバル化の進展が顕著な現代社会において、**研究活動のグローバル化も必要**となり、**本学の研究者と海外の研究者との多様な交流、海外の学術交流拠点との連携強化、海外との学術交流拠点としての役割を発揮**することで研究活動をより活性化させ…
イノベーションの創出を目指す
- 令和3年度（令和4年1月）、本学の国際化に関する諸課題や令和2年度から拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、本学の国際交流の取組が大きく影響を受けるなど、学内外の状況の大きな変化も踏まえ、国際交流推進センターにおいて「**国際行動指針**」を策定＊
- 第4期中期目標計画期間（令和4年度～令和9年度）において、**多様な人々との協働、イノベーションの創出を目標**として掲げている。**国際交流において、その裾野支援(通常経費)に対して、先導する取り組みが必要**。

＊ 令和4年度、文部科学省より、高等教育を軸としたグローバル政策の方向性～コロナ禍で激減した学生交流の回復に向けて～（令和4年7月26日付）」により、大学のグローバル化を進めることが重要だと示されている

佐賀大学 戦略的パートナーシッププロジェクト（戦略的PSプロジェクト）

参考資料

～海外大学との連携・協働により、研究教育力の向上やイノベーションの創出、持続可能な社会を構築できる人材を育成～

事業概要（事業期間 令和4年度～令和9年度の6年間）

佐賀大学ビジョンプロジェクト追加募集に予算要求（予定）

●事業目的：

- 従来の研究教育交流を基盤としつつ、**先導的連携・協働プロジェクト**として
**本学の教職員や学生の双方向の国際流動性を高めることにより、
研究活動や学びを活性化させる**
 - 海外大学と**互いの強みを生かした新たな研究教育交流基盤構築**により、
海外大学との持続可能でシナジー効果のある関係強化に取り組む
- また本事業を通じて、今後、**「戦略的パートナーシップ制度」の創設を目指す**と
ともに**外部資金獲得等も目指す**

●取組要件：

- ✓ 海外大学と連携・協働による互いの強みを生かした**国際共同研究計画**がある
- ✓ 教職員・学生全てのバランスのとれた**双方向の国際交流計画**があること
- ✓ 海外大学と連携・協働による質が保証された**高度な国際共同教育プログラム**等を計画すること

- ・国際共同学位プログラム（DDやJD※）の構築を目指す計画
- ・国際共同教育プログラム（サンドイッチ・プログラム）の構築を目指す計画
- ・文理の枠を超えて課題解決に取り組むプログラムの実施を計画
- ・プロジェクト学習等により、相互理解を深める国際教育プログラム
（例 国際共修プログラム）の実施を計画 等 ※ダブルディグリーやジョイントディグリー

●事業規模：戦略的PS校 10校程度※

（研究重視型5校・教育重視型5校）

※当面、試行的に意欲的かつ対等な関係構築が可能な海外大学との取組を開始。将来的には、各学部や研究科からの意向を踏まえる

戦略的PS校（イメージ）

大学間交流協定校
75 機関
(20カ国・地域)

戦略的PS校6校程度

通常の大学間交流協定校

全体工程（案）

<第1期 PSプロジェクト実施期間>						<第2期 制度運用期間>					
☐ 試行的実施 ☐ 取組の検証等を実施 ☐ 戦略地域・戦略PS大学の選定 ☐ 選定大学と「戦略的パートナーシップ協定（戦略PS協定）」を締結						☐ 戦略的PS協定により関係強化 ☐ 国際交流の深化と発展					
R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12			
2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030			
<第4期中期目標計画期間>											

アウトプットの例

- ☐ 戦略的PS校10校（研究重視型5校・教育重視型5校）の選定
- ☐ 教職員・学生の派遣・受入数の増加
- ☐ 派遣・受入研究者による審査付き国際共著論文数の増加
- ☐ 本学研究者主催による国際研究集会増加
- ☐ 戦略的PS大学との連携・協働による共同研究、共同教育の増加

期待されるアウトカム

- ✓ **本学の強みにつながる研究教育の多様性等の強化やグローバル化**
- ✓ **教職員・日本人学生の国際的な資質・能力の向上**

地域・国際社会へのインパクト

- ✓ **研究教育の強化と国際的なプレゼンス向上**
- ✓ **地域社会の発展に寄与する研究とイノベーションの創出**
- ✓ **持続可能な社会を構築できる人材の育成**